50年、100年先の熊本の未来に向けて

県では、熊本地震、新型コロナウイルス感染症、令和2年7月豪雨災害の3つの困難を乗り越えながら、
50年、100年先の未来に向けて、熊本の持つポテンシャルを最大限に生かし、
さらなる発展を目指して、これからも力強く歩みを進めていきます。

新生シリコンアイランド九州の実現

12月末に控えるTSMCの製造子会社JASMの新工場の本格稼働や、第２工場の立地決定を受け、県では、阿蘇くまもと空港の周辺地域のさらなる活性化や、半導体関連産業の集積に向けた取り組みを着実に進めています。その効果を県全体、ひいては九州全体に波及させることで、さらなる熊本の発展に繋げていきます。

●TSMC進出決定以降、半導体関連企業の新設・増設に伴う立地協定件数は45件（R6.1月末時点）に上り、企業の集積が進んでいます。また、八代地域において新たな県営工業団地の整備を検討しています。

インフラの整備

●将来の基幹となる道路ネットワークの中から、優先して県道大津植木線の多車線化や中九州横断道路の（仮）合志ICへのアクセス道路などの整備を集中的に進めています。

●阿蘇くまもと空港への公共交通によるアクセス改善のため、空港アクセス鉄道の整備検討を進めています。

環境保全・農業振興と企業進出の両立

●地下水かん養目標の見直しや水田湛水事業の拡大等によるさらなるかん養の推進、工業排水を処理する下水道の整備や規制外の物質を含めた環境モニタリング（水質・大気）の実施等、地下水を未来に守り継ぐ取り組みを進めています。

（一般道）
事業実施中
計画検討中

（高規格道路）
事業実施中
調査中

●企業進出が進む中で、関係市町村や農業団体と協力し、農家の利用可能な農地の確保（マッチング）と生産支援対策に取り組んでいます。引き続き、営農継続に向けた支援等を進めていきます。

半導体関連産業を担う人材育成

●半導体関連の人材需要の高まりに伴い、熊本の半導体関連産業を担う人材の育成のため、令和6年4月に県立技術短期大学校に「半導体技術科」を設置します。

●県では、東京大学（R6.2月）や熊本大学・九州大学（R5.12月）との間で包括連携協定を締結し、人材の育成等に取り組みます。

“緑の流域治水”の推進 ～令和２年７月豪雨からの創造的復興～

命と清流を守る“緑の流域治水（グリーンニューディール）”の理念のもと、将来にわたり持続可能で魅力的な地域としての再生・発展を目指し、球磨川流域の一日も早い安全・安心と被災地の創造的復興に向けた取り組みを進めています。

球磨川流域の安全・安心の確保

●国、県、流域市町村、企業、住民が協働し、流域全体の総合力で安全・安心を実現していきます。

五木村・相良村の振興

●長年ダム問題に翻弄され続けてきた五木村と流水型ダムの建設地となる相良村について、引き続き、国・県・村が一体となり、新たな振興を力強く推進していきます。

※“緑の流域治水”イメージ図

被災地の創造的復興の完成

●被災者の住まいの再建と被災地の復興まちづくり、道路・橋梁をはじめとするインフラの復旧等、国・流域市町村とともに全力で取り組んでいきます。

●JR肥薩線については、鉄道復旧後の利活用策等を盛り込んだJR肥薩線復興方針を取りまとめました。全国の地方創生のロールモデルとなる鉄道復旧を目指し、国・JR九州・地元市町村と協議を進めていきます。

「こどもまんなか熊本」の実現

少子化対策が喫緊の課題となる中、子育て世代や熊本のこれからを担うこども・若者たちの視点に立った施策を行うことで、熊本を育む人材を増やし、熊本のさらなる発展に繋げていきます。

●こどもや若者・子育て世代が生活しやすい「こどもまんなか熊本」の実現に向けた取り組みを進めています。県民アンケートやグループインタビュー等で集めた意見やニーズを施策に反映させ、若者の地元への定着促進や出生数の増加に繋げていきます。

知事とのグループインタビューの様子

●令和6年春、県立図書館隣接地に「こども本の森 熊本」が開館します。未来を担うこどもたちの豊かな感性や創造力を育むため、世界的建築家の安藤忠雄さんから寄贈されるもので、名誉館長には本県出身の俳優　宮崎美子さんが就任されます。

九州を支える広域防災拠点へ

九州の中央に位置する熊本県では、南海トラフ地震など広域的な大規模災害時に九州全体の広域防災拠点としての役割を担えるよう、県防災センターを整備する等、防災力の強化に取り組んでいます。

●大規模災害時に近隣県と相互に支援・受援が速やかに行えるよう、九州中央自動車道や中九州横断道路の整備を促進します。2月11日には九州中央自動車道「山都中島西IC～山都通潤橋IC」間の延長10.4km区間が開通しました。

●令和6年能登半島地震に対し、被災地のニーズに応じて順次職員を派遣しています。

●被災市町村と連携して、震災遺構やKIOKU（南阿蘇村）等の拠点施設を活用し、熊本地震の経験・教訓を後世に伝える震災ミュージアムの取り組みを進めています。

●令和6年秋には『防災推進国民大会』（国内最大級の防災イベント）、『「世界津波の日」2024高校生サミット』が県内で開催されます。災害の記憶を次世代へ継承し、創造的復興の歩みを広く発信します。

豊かな食、自然、文化を次の世代へ

熊本の豊かな農林水産物の価値を高め、大都市圏等での認知度向上により熊本の食の魅力を広く発信していきます。また、県内の雄大な自然や地域で受け継がれてきた文化を守り、未来へ繋げていくための取り組みを進めています。

RENGA
KUMAMOTO SOUTHERN FOOD VALLEY

●「くまもと県南フードバレー構想」の取り組みの一つとして、県南地域の農林水産物を活用した優れた商品を認定する「RENGA」ブランドを創設し、全国的な知名度向上とブランド化に取り組んでいます。

●県では、阿蘇郡市７市町村と共に、広大なカルデラとその周辺で古（いにしえ）からの人々の営みにより形成されてきた草原などの文化的景観を未来へ引き継ぐため、「阿蘇」の世界文化遺産登録を目指しています。地域の皆様のご意見をお聴きしながら、「阿蘇」の文化的景観の価値を保護するための文化財保護法に基づく手続きなどを進めています。